都市デザイン横浜展

開催記録

個性と
魅力ある
まちを
つくる

2022.3.5㊏→4.24㊐

BankART KAIKO

はじめに

1971年に横浜で初めて「都市デザインチーム」が発足し、2021年に50周年を迎えました。これを記念し開催された「都市デザイン 横浜」展は、新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置下にも関わらず多くの方にご来場いただき、会期を延長。総勢1万人を超える方々に横浜の都市デザインを知っていただく機会となりました。

本書では、これからも「横浜都市デザイン」の取組を知るきっかけとして広く活用していただけるよう、同展覧会の開催実績を記録するとともに、その展示概要をお伝えします。

Contents
目次

03 …… 開催概要

04 …… 001 プロローグ/都市 横浜 Prologue

06 …… 002「都市デザイン 横浜」の誕生 Genesis

11 …… 来場者の声

12 …… 003 都市デザイン50年の実践 Practice

16 …… 004 都市デザイン手法の展開 Progress

20 …… 005 横浜・風景の解剖 Anatomy

24 …… 個性ある街を歩くような展示会場

25 …… イベント

26 …… 馬車道駅展示

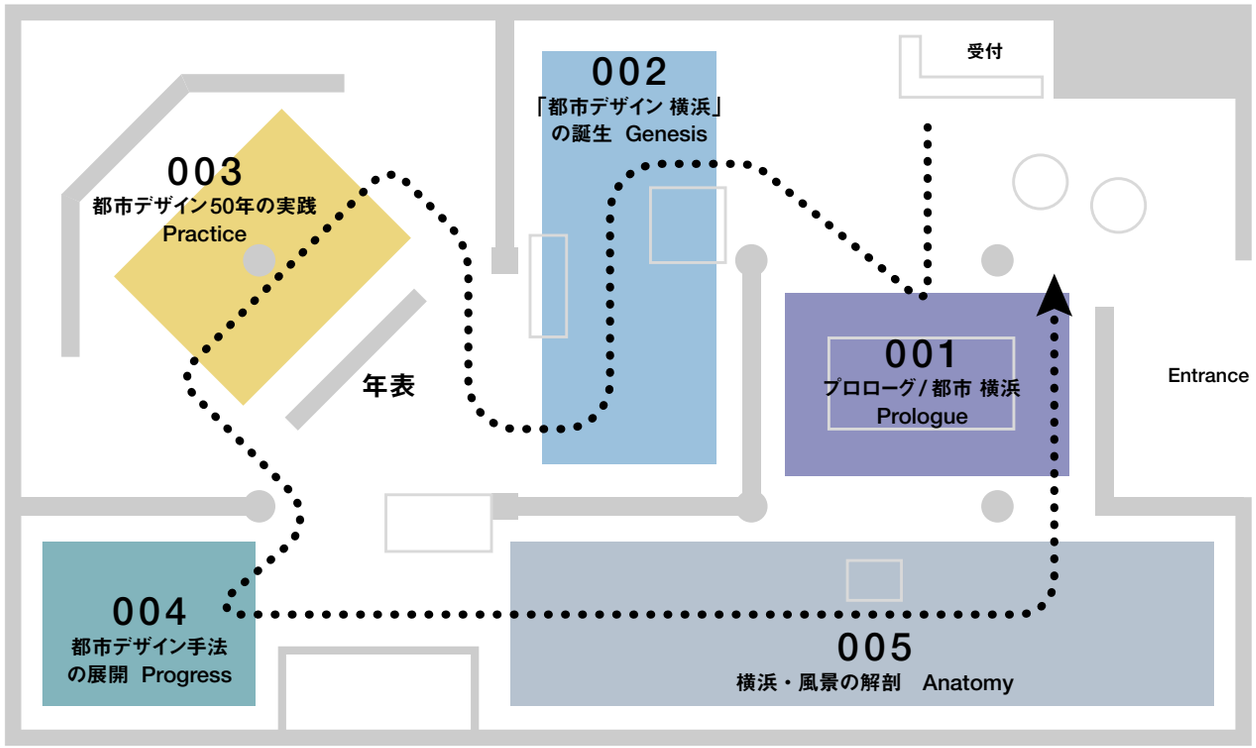
28 …… 開催結果概要

29 …… アンケート結果

30 …… 座談会 ～展覧会を終えて～

32 …… 展覧会カタログ

33 …… 謝辞



開催概要

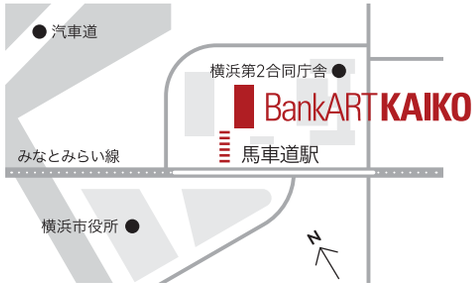
タイトル： 「都市デザイン 横浜」展 ～個性と魅力あるまちをつくる～

開催日時： 令和4年3月5日［土］～4月24日［日］（48日間）
11:00～19:00（最終日4/24は17:00終了）
※当初3月29日［火］に終了予定だったが好評のため会期延長
※4月4日、11日、18日は休館

料金： 一般700円（横浜市民500円、学生300円、障碍者と付添い無料、カタログセット3,000円）
※本人に限り会期中何度でも入場可能

開催場所： BankART KAIKO（横浜市中区北仲通5-57-2 KITANAKA BRICK&WHITE 1F）

主催： 横浜都市デザイン50周年事業実行委員会、横浜市都市整備局



できごと

3/4 プレス向け内覧会

3/5 関係者内覧会／オープニング／カタログ発刊

3/21 イマジン・ヨコハマ特別編 都市デザイン横浜展オンラインツアー

3/21 まん延防止等重点措置解除

3/27 来場者5,000人超え

3/28 会期延長プレス発表

3/29 山中市長来場

4/20 横浜貿易協会幹部セミナーにて都市デザイン展PR

4/16 TDA「都市デザイン横浜展」オンラインツアー開催（国吉会長出演）

4/24 来場者10,000人超え／会期終了

001 Prologue

プロローグ / 都市 横浜

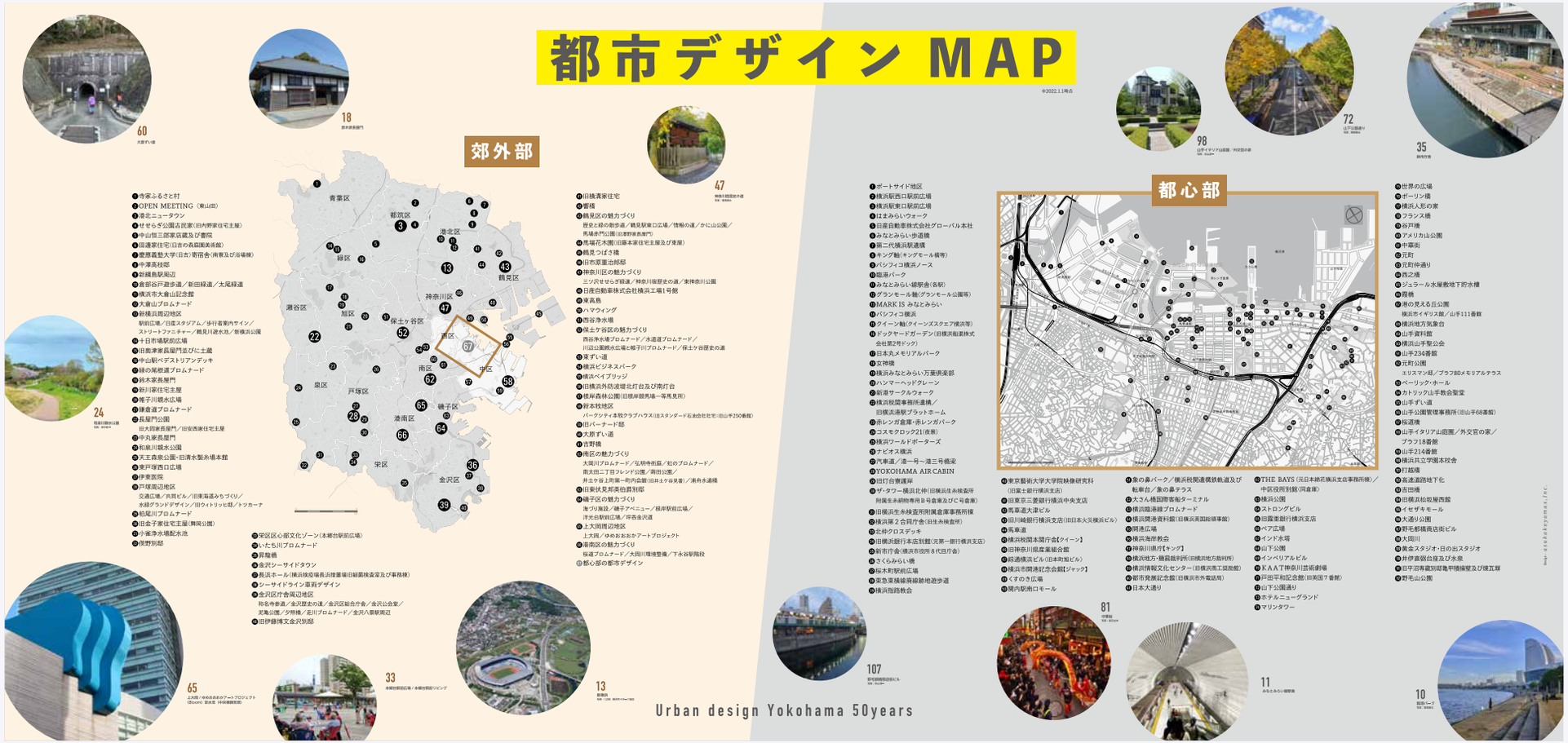
開港を機に港湾、商工業都市として栄え、住宅地、観光地としても人気のある横浜市。約 438km² に及ぶ市域は 18 区に分かれ、約 377 万人が住む、日本有数の大都市です。開港以来の歴史を感じる都心部や、緑や丘陵地に恵まれた郊外部など、様々な魅力や個性を生かして、都市デザインの取組は横浜市全域で展開されてきました。

001

会場の中心に位置し、来場者が受付をしてまず目にするのが巨大な都市模型です。都市デザインの取組の多くが集中する、横浜駅〜山手の都心臨海部が 1/1000の縮尺で精巧に再現されています。この模型を囲み、楽し気に話す姿が多く見られました。都市やまちづくりを専門としていない一般の来場者にとっても、普段見慣れた街を俯瞰的に把握でき、まちやまちづくりへの興味を向ける入口となりました。

この模型で示される横浜の都心臨海部は、そのほとんどが埋立てによって生み出された土地です。開港の地である関内地区、交通の要衝として戦後急速に商業エリアとして大きくなっていった横浜駅周辺、そしてその2つのエリアに挟まれ20世紀後半に都市化されたみなとみらい21地区、山手や野毛山といった丘陵地など、この模型の範囲だけでも、それぞれに特徴ある個性的な地区が集まっています。
横浜の都市デザインは、都心臨海部エリアを取組当初のターゲットとして活動を開始しました。地区ごとの個性を読み込み、魅力として生かすデザインやまちづくりは、開始から10年足らずで成果をいくつも生み出し、やがて横浜市全体へと拡がっていきました。

模型展示協力：一般社団法人横浜北仲エリアマネジメント



Designer ／ 小山飛鳥 Asuka Koyama

アスカコヤマックス株式会社代表。2009年、アスカコヤマックス株式会社を立ち上げ、デザイナーとして、横浜を拠点にデザイン・映像編集・企画・ディスプレイなど様々な分野の業務を請け負う。「ラグビーワールドカップ2019™神奈川・横浜観戦ガイドデザイン」、横浜市「よこはまプレミアム商品券デザイン」、JR東日本「横浜駅着工PRムービー」などを手がける。

002 Genesis

「都市デザイン 横浜」の誕生

開港以来、横浜の街は災害などの困難を乗り越えるたびに、街をより良く変えていくことを繰り返してきました。横浜の都市デザイン活動も戦災後の接収という横浜の特異な歴史の先に誕生したものです。

ここでは横浜の歴史をなぞりながら、なぜ横浜が都市デザイン活動を始めるに至ったのか、そして都市デザインとはどのような活動なのかに迫ります。

002

まちの「個性と魅力」づくりの最も大きな拠り所のひとつが、そのまちの歴史です。開港の地「横浜」の都市形成の過程を知ると、現在の都心臨海部の魅力ある空間に繋がっていることに気づきます。震災・戦災と接収を経て、飛鳥田市長下の企画調整室で誕生した「都市デザイン」の長年にわたる活動が、そうした歴史と特徴ある横浜の街を、人間的で魅力的な都市空間へと変えていきました。

都市 横浜の歴史

横浜の街は、大火や震災、空襲といった繰り返す災害とそこからの復興の中で、今の姿を形づくってきました。
また、首都・東京に近接する立地は、開港場としての運命を決定づけると共に、
戦後の急激な人口流入による都市問題をもたらし、その後の都市政策の流れへとつながっていきます。

1859
横浜開港
→世界への玄関口として発展

神奈川は江戸に直結している。開港地は横浜に（江戸幕府）

交通の要衝から外れたことで、横浜独自の文化形成も

幕府は東海道で江戸と直結する神奈川ではなく、少し離れた横浜を開港の地とします。東京からの影響を受けにくい立地で、横浜独自の文化が形成されていきます。

横濱本町並二港崎町細見全図（開港資料館蔵）

1866
慶応の大火
→「横浜居留地改造 及 競馬場墓地等約書」

日本人街からの出火で外国人居留地にも被害

近代的な都市計画で、現在の関内の骨格が出来上がる

大火を契機に近代的な都市計画が始まり、日本大通りや馬車道等の街路や彼我公園（今の横浜公園）が整備され、現在の関内地区の骨格がつくられました。

Plan of the Settlenent of Yokohama R・H・プラントン作成（1870年）（横浜開港資料館所蔵）

1872 鉄道開業 / 1887 近代水道創設 / 1894 鉄桟橋（大さん橋）完成 / 1917 新港ふ頭完成

近代化とともに、大さん橋、新港ふ頭（赤レンガ倉庫：保税倉庫）等の港湾施設が築造されました。

1923
関東大震災
→「震災復興計画」

東京を上回る甚大な被害

帝都復興が優先、港都復興は縮小に

多くが埋立地であった横浜都心部は、地震とその後の火災によって甚大な被害を受け、多くの建物が失われました。その後も帝都復興が優先され、横浜の復興計画は縮小を余儀なくされました。

横浜中央電話局舎からみた震災被害全景（横浜開港資料館所蔵）

1945
横浜大空襲と戦後の接収
→復興が遅れる「関内牧場」

首都占領を回避し、横浜が接収地に

東京との近さゆえの人口急増と乱開発

空襲により市街地の約6割が焼失。終戦後も米軍の接収を受け、復興は大きく立ち遅れます。一方高度経済成長期に入ると乱開発が進み、ゴミ問題や交通渋滞等の都市課題が顕在化します。

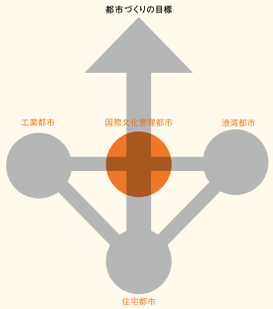
「関内牧場」と呼ばれた頃の関内の様子（横浜市史資料室所蔵）

1952
耐火建築促進法（防火帯建築）

1965
「都市づくりの将来計画の構想」
→市民がつくる横浜の未来

港・工業・住宅だけではない、新しい横浜をつくる

都市の骨格をつくる、六大事業の提案



革新派の飛鳥田一雄市長が誕生すると、「都市づくりの将来計画の構想」を発表。「国際文化管理都市」という新しい横浜のあり方を提案。都市の骨格をつくる「六大事業」もこの構想で初めて示されました。

「横浜の都市づくり－市民がつくる横浜の未来－」

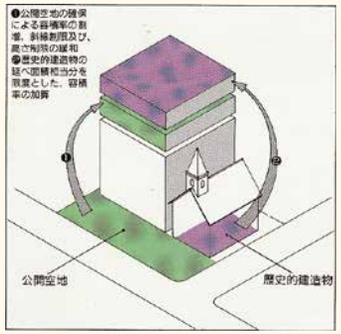
自立的都市のための3つの基本戦略

1965年に「都市づくりの将来計画の構想」で示された「プロジェクト（六大事業）」。これに、横浜市が主体性を持って土地利用を適正化する「コントロール」と、地域の個性や魅力ある都市空間をつくりだす「アーバンデザイン（都市デザイン）」を加えた3つの戦略を基本として、「横浜のため」「市民のため」の自立的な都市づくりが進められました。

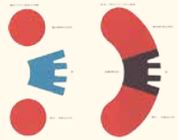
コントロール

10年間で約100万人という急激な人口増加に基盤整備が追い付かず、乱開発が進められていく状況において、法的制度が未整備な状況で都市問題を解決するため、「横浜方式」とも呼ばれる、横浜独自の土地利用の規制・誘導の仕組みをつくり、民間の建設や開発をコントロールしていきました。

・宅地開発要綱
・都市計画法に基づく「線引き」
・横浜市市街地環境設計制度
・山手地区景観風致保全要綱



プロジェクト（六大事業）



都心部強化事業
・業務、就業の場の創設、商業の育成、強化
・都心周辺の工場を移転し、その跡地を再開発する

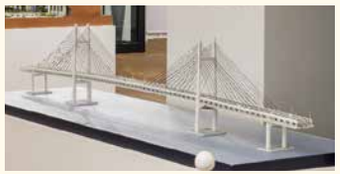
港北ニュータウン建設事業
・計画的な新しい市民生活の場の創設
・農業の継続と、都市と共存する新しい都市農業の創成
・市民参加のまちづくり

金沢地先埋立事業
・都心部強化のための工場移転用地の確保
・既成市街地に点在する工場の近代的な工場団地への集約。
・関連従業員の住宅、住宅団地造成
・最後の自然海岸の代替となる、海の公園などの建設

高速鉄道〈地下鉄〉建設事業
・郊外部の住宅地と横浜都心部の連絡強化
・東京志向型の交通網の是正
・新設駅を都心再開発の発火点とする

高速道路網建設事業
・東京、東名高速と連絡することで、首都圏での横浜の位置を強化する
・都市内の自動車交通の円滑化を図り、市民を交通災害から守る

横浜港ベイブリッジ建設事業
・物流交通が横浜都心部を通過しないようにバイパスする
・ミナトヨコハマの新しいシンボル



横浜を自立都市へと導いた者たち

当時の横浜市長・飛鳥田一雄氏は、民間都市計画コンサルタントの先駆けである環境開発センター・浅田孝氏に、横浜市の将来ビジョン「都市づくりの将来計画の構想」の作成を依頼。この主担当が、都市プランナー・田村明氏でした。

飛鳥田 一雄 氏

浅田 孝 氏

田村 明 氏

横つなぎの組織:企画調整室

これら3つの都市づくりを実践するため、当時の飛鳥田市長は、構想の生みの親の一人である田村明氏を市に迎え入れると共に、庁内を横断的に調整し、事業を推進するための組織「企画調整室（のちに企画調整局）」をつくります。当時、企画調整室（局）で使われていた「個性的な都市計画」「実践的都市づくり」「マスタープログラム」「非定形流動」といった言葉からは、前例に捉われず、新しい都市づくりに挑戦する強い意思が感じられます。構想の実現に向け、大きな製図板を囲んで情報を共有、横断的に議論する姿勢は「大テーブル主義」と呼ばれ、職位の上下を問わない闊達な議論の象徴になりました。

現役時代の大テーブル

アーバンデザイン

横浜のアーバンデザイン＝都市デザインは、プロジェクト・コントロールによる都市づくりに並走し、都市問題への対処や機能性や経済性などの価値観だけでなく、そこに美しさ、楽しさ、潤いなどの美的価値・人間的価値をバランスさせることで、個性と魅力ある、人間を大切にした都市空間を生み出していくための手法として進められました。

横浜の都市デザインの始まり

1971年、企画調整室に岩崎駿介氏、国吉直行氏の2人によるアーバンデザインチームが全国に先駆けて発足します。アーバンデザインチームの最初の取組テーマは「歩いて楽しい街」。当初は戦略的に都心部を活動の場としましたが、その後、企画調整室から企画調整局、都市デザイン室へと組織を移しながら、取組のテーマやエリアは大きく拡大していくことになります。

初期のアーバンデザインチームメンバー

「個性と魅力ある人間中心のまちをつくる」

都市デザインの「7つの目標」は、車社会や経済効率の優先された当時にあって、人間を中心に据えたまちづくりの考え方を表明したもので、当時から変わらない、横浜 都市デザインの普遍的な価値観となっています。初代・都市デザインチームのリーダー、岩崎駿介氏の考えた「擁護すべき価値」が元となって、つくられました。

1 歩行者活動を擁護し、安全で快適な歩行者空間を確保する

人が安心して堂々と歩けること、老人も子どもも、目的地まで車に圧迫されることなく、気持ちよく歩くことができることは、都市生活を豊かにする基本的な要件である。

汽車道

2 地域の地形や植生などの自然的特徴を大切にする

どんな地域にも地形をはじめ川や坂、樹木などの自然的特徴があり、その特徴がその地域らしさをつくってきた。そして、これからの地域の特徴づくりのヒントもまた、その自然的特徴の中に隠されている。

舞岡公園

3 地域の歴史的、文化的資産を大切にする

都市の生活を豊かにし、地域の個性を形づくっているものは、生活の積み重ねであり、都市の歴史である。その生き証人である歴史的建造物や文化的資産を極力保全し、未来につないでいくことが、物語のある都市づくりにつながる。

横浜税関と赤レンガ倉庫

4 オープンスペースや緑を豊かにする

都市の密度が高まれば高まるほど、何もない広場や公園、ただ緑があることの価値は、対比によって高まる。都市内の農地や山林、河川、公園、そして緑が連続していることも大事である。

世界の広場

5 海、川などの水辺空間を大切にする

水に触れることは、都市での生活を豊かなものにしてくれる。港町である横浜では、活発な市街地を海辺や川面に面するようにして、市民が水に触れる機会を増やすことが大切である。

大岡川プロムナード

6 人と人がふれあえる場、コミュニケーションの場を増やす

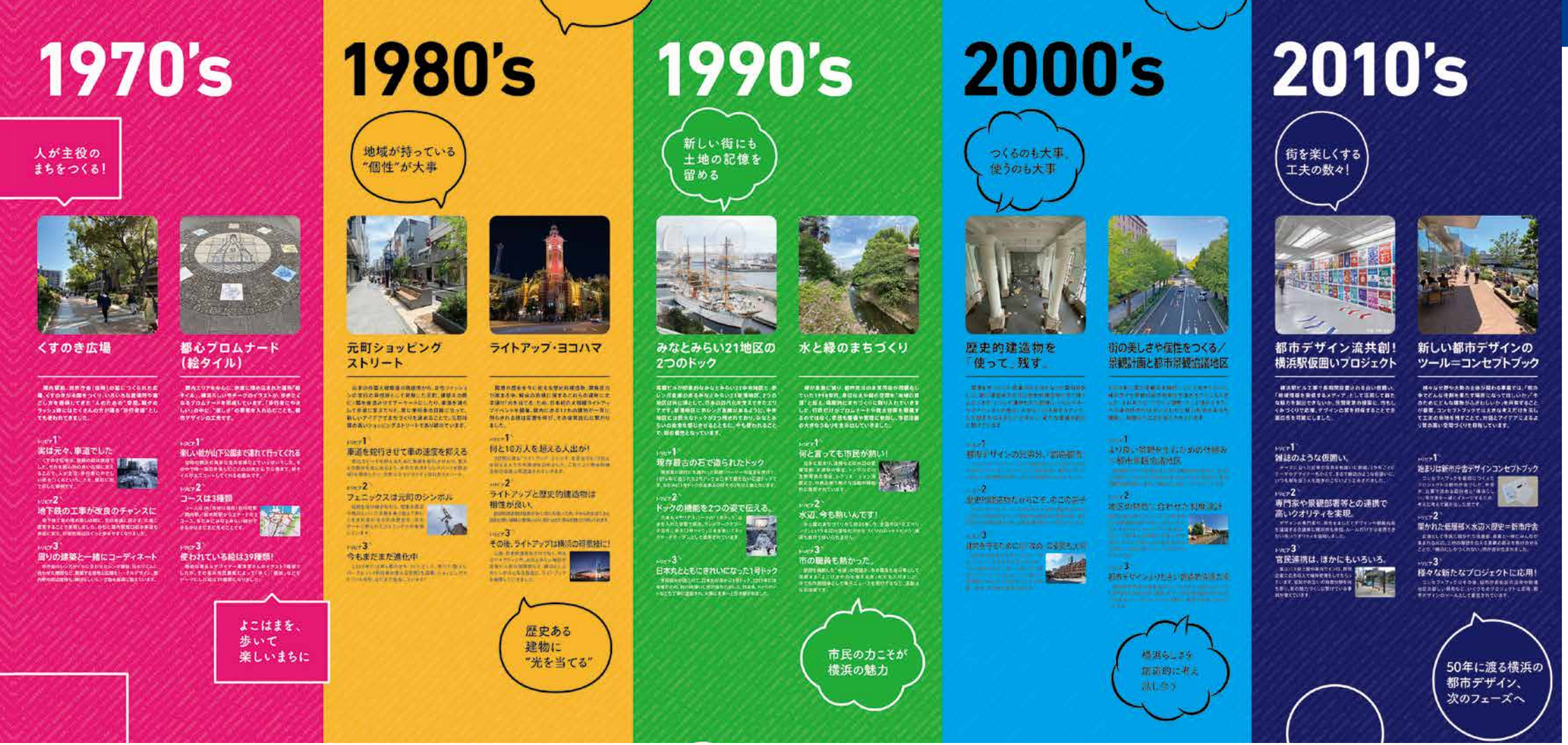
都市生活では、他人とふれあうことで地域とのつながりが強まり、市民的な活動につながる。ホールなどの屋内施設だけでなく、都市デザインでは人の集まる街の接点に屋外広場を設けていくことも、市民生活を豊かにしてくれる。

左近山みんなのにわ

7 形態的、視覚的美しさを求める

ここでいう都市の造形的・空間的美しさとは、都市が他者との交流を促す舞台として、驚きや喜びといった人の心に動きを生み出すように構成されていることを指す。現代で見落とされがちな、人間的な価値を発揚するために美しさや形態的秩序を用いるべきである。

みなとみらい21中央地区夜景
撮影：菅原 康太



都市デザインの取組は、市庁舎（当時）の横の車道を人のための「くすのき広場」として再整備し、「歩いて楽しいまちづくり」を体現することから始まった。同時に、桜木町・関内・石川町の3駅から山下公園へと絵タイルが楽しく誘う「都心プロムナード事業」も展開し、「7つの目標」の価値観を実空間で示していった。

その後も、歴史を生かしたまちづくり、郊外の水と緑を生かしたまちづくり、話し合いでデザインを高める景観協議制度、クリエイティビティでまちづくりを進める創造都市、官民連携による魅力ある都市空間形成等、時代とともに手法を変化・展開させながら、個性と魅力あるまちづくりを進めてきた。

Designer ／ NOGAN

「横浜の毎日を最高にする」をコンセプトに、横浜の魅力を伝えるソーシャルクリエイティブカンパニー。

ウェブサイト、印刷物、空間演出、商品企画、コンサルティング、ブランディングなど、「デザイン」を通して、様々な社会的問題を少しでも良くしていきたいと、取り組んでいる。

NOGAN

来場者の声

twitterやfacebookなどのSNS上でも、来場者の方々が様々な感想を述べてくださいました。
有難いコメントの中から、抜粋して掲載させていただきます。

川添善行さん（東京大学准教授・建築家）

現在、私が各地で関わってるのは、いずれも最初の構想あたりで、そこでさえ悪戦苦闘しているのだが、横浜市のこの蓄積の厚さを知ると、横浜が成し遂げたことに驚愕せざるを得ない、というのが正直な感想だった。
どうやったら、このような都市政策の一貫性が、半世紀にわたって持続しうるのだろうか。
そして、空間的・事業的に共同作業である都市デザインを、半世紀に渡って持続できる都市は、今後、他にも現れるのだろうか。（今、私が関わっているところでは、ぜひ実現したい。）
展覧会では、横浜のアーバンデザインの方法論を具体の写真で説明するコーナーもあり、建築諸氏にとってもアーバンデザインの手法を学びを得やすい構成になっている。
今回の展覧会に合わせて発刊された書籍には、展覧会場にはない多くの情報があり、西村幸夫先生がおっしゃる「第3の歴史的文書」になることは確実の書籍。350Pのカラー書が3000円という、破格の値段設定。
この書籍の巻頭論文で、野原 卓さんは、都市デザインを空間的･調整的･拡張的・運動的、という4つの類型に分類しているが、横浜にはそのいずれもが存在している。また、土木景観界隈の方には、篠原先生が寄稿している「苦い記憶」が、人柄も合間ってなんとも微笑ましく（と言ったら失礼?）、こちらも、一読の価値あり。
歴史を振り返ると、何かと「この人が」とか「あの人の存在が」とヒーローを描きがちだが、横浜のアーバンデザインには、有名・無名を問わず、多くの人が参加している様子が明らかになっていて、「ヒーローなき都市再生」というか、半世紀にも渡るその蓄積以上の「デザイン」はあり得ないのでは、と思う。

岡井健さん（NPO法人日光門前まちづくり理事・環境デザイナー）

都市デザイン横浜展、圧倒的でした。50年の蓄積と実績が今の景観を形作っていることがよくわかりました。
アンカーになる言葉、プランやアクションを担う役者（人）、官民の連携、考え方、知恵、技術などなど、都市デザインやまちづくりに必要な要素が全部ここで抽出されたような。
何より「良くしたい」という熱意が持続し、受け継がれていかなければ、スパンのながい"都市・まち"には効かない。あらためて感動と感服です。

中島直人さん（東京大学准教授・都市デザイン）

横浜の方だけでなく、各都市の都市計画部局の職員の方に見てもらいたい充実した内容、都市デザインマインド溢れる分かりやすい展示。早速、藤沢市、杉並区の方にもご案内した。志高く頑張ればここまでできるんだ、という。
記念冊子も素晴らしい。個人的には、巻頭に野原卓先生の「都市デザインの遺伝子はいかに受け継がれるか」、誕生パートに鈴木伸治先生の「都市デザイン前夜　～横浜都市デザイン誕生へ導いた者たち～」、随所に桂さん、巻末の座談会に編集チームの山田さん、片岡公一さん、そして最後に西村幸夫先生の「横浜の都市デザインがもたらしたもの」と、次々と出会う近い人たちの言説に感慨を覚える。それぞれがそれぞれの立場から横浜の都市デザインに貢献してこられたということと同時に、東京大学の都市デザイン研究室というか、都市デザインの学術的探究が、横浜市の都市デザイン、都市デザイン室の実践の蓄積によって多分に支えられてきたことを示していると思う。
要するに、都市デザインは実存するということである。

今村和代さん

拝見出来て良かった。自分が生活している都市（街）の経過を知り、普段自分が当たり前に暮らしている街を、当たり前に暮らせているのは、街（都市?）をより良くしていこうと尽力されている方々がいるおかげなんだなと有り難い気持ちになった。
帰り道の街の景色は行きの景色と同じなのに、とても良い景色に感じた。その景色に、がんばって下さった方々や様々な人の想いを多少でも想像出来るようになったからかもしれない。
有り難い気持ちになれることは幸せだ。街という生活の場が有り難いと思えるのは、なんか失恋とかして「宇宙でヒトリ」みたいに打ちひしがれていても、既に「場」に支えられているような感じがして安心の上にいるような?そういう有り難い気持ちに気付かせてくれた都市デザイン横浜展に伺えて私のこれからの毎日にとっても良かった。
街のジオラマの圧巻さもさることながら映像や写真を眺めながら、その景色にちなんだ普段忘れてる昔のしょうもない記憶が走馬灯のように次々蘇った。私の育ちは川崎だけど幼少から今に至るまでに思っている以上に横浜の思い出が多く自分のことながら驚いた。

twitter

横浜への住みたさが爆上がりした。

横浜をもっと知りたいと思った。

都市デザイン横浜展、最高すぎた。

普段何となく見ているまちの景色も、学びがあると違って見えてきた。

横浜の街はあんなに考えられていたんだなぁと感動した。

横浜の歴史や魅力を学べるだけでなく、都市デザインがどのように街に活かされているかを詳しく知ることができた。

スクリーンで見る10分程度の動画は、横浜市民としてジーンとくるものがあった。

003 Practice

都市デザイン50年の実践

横浜の都市デザインでは、都市空間の「質」にこだわり、大規模プロジェクトから、ランドスケープ、建築、ストリートファニチャー、街なかのグラフィックまで、デザインをしてきました。

ここでは、都市デザイン５０年の実践と、その成果としての都市空間を、実際の街中にいるかのような映像を用いて、表現しています。

003

横浜における50年に及ぶ都市デザインの取組は、2000とも3000とも言われています。それらのほとんどは、都市デザイン室の職員だけでなく、様々な事業に関係し、連携しながら、取り組まれてきました。また、その中には実現に至らなかったものも多数あります。語りつくせない膨大な取組の一部ではありますが、代表的なものをテーマごとに分け、都市デザインの意図する魅力的な都市空間を大画面で体感してもらいました。

グランドデザイン

前からあるもの、後からつくるもの、これまでのこの場所での活動、
周囲や世間の状況街を取り巻くさまざまな要素があったとき、
どのような街の風景になるのか、どのような街の個性をつくっていくのか、
どのような人々が訪れるのか、さまざまな考えを巡らせながら、
大きな街のかたちをつくっている。

埋立地に一からつくられたみなとみらいは、赤レンガ倉庫やドック等の歴史を生かしながら、新しい業務・商業地区として総合的にデザインされている

六大事業の一つ、金沢地先埋立事業の住宅部分である金沢シーサイドタウンでは、歩行者のための街路ネットワークや工場との間の緑地帯等を配している

歩いて楽しい

街を歩いていて、何か感情が動かされることはあるだろうか。歩いていて、街の風景によって心が癒されたり、気持ちが落ち着くことはあるだろうか。疲れたら座って休めたり、コーヒーを飲めるようなところはあるだろうか。街の変化が会話のきっかけになったり、好みのお店をみつけることはあるだろうか。久々の知り合いにあうことはあるだろうか。そんな気持ちの変化や偶然を街に期待してもいい。だから街は楽しい。

運河を埋め立てて整備された市営地下鉄の直上に設けられた大通り公園。「緑の軸線」の関外側の主軸を担っている

県と市の連携による河川環境整備により実現した、川を感じながら歩ける大岡川プロムナード

感じる街の記憶

その街の歩んできた記憶がそこにはある。
街全体が古い建物ではないけれど、なぜか街の印象は強く残っている。新しい建物の隣にあるけど、その古い建物とけっこう馴染んでいる。訪れるだけでも、懐かしさを感じたり、不思議と落ち着きを感じたり、使われることでも、次の時代の記憶へとつながっていく。

かつての外国人住居が集中する山手エリアでも最大級の規模を誇る洋館である、ベーリック・ホール

国の保税倉庫だった赤レンガ倉庫は、文化施設・商業施設として活用されながら、当時の港の機能や歴史を今に伝えている

心と身体に触れる自然

釣り、水遊び、虫取り、ピクニック、読書…さまざまな営みを受け入れてくれる自然を生かした街づくり。都心でも郊外でもいつも身近に、その場所の持っている自然や地形に触れられるように。くつろいだり、ただ歩いたり、気分転換だったり、目的がなくても、外に出てみる。
自然は心にもそっと触れてくれる。

一度は治水工事により河川整備が行われるものの、水質悪化を招き、多自然型護岸等による自然復元工事が行われたいたち川

かつての海岸線に位置し、水の気配を感じさせるデザインの磯子アベニュー

みんなで街をつくる

まちはみんなでつくっている。
小学生も、社会人も、お年寄りも、企業も、小さなイベントから大きな開発まで、一緒に意見を出し合って、協力しあってつくっている。みんなが街を使うことで賑わったり、街をつくることで仲間ができたり、周囲もキレイになったり、様々な気付きがある。「みんなでつくる」が、つながっていく。

工事中の仮囲いの全面を利用し、地域のメディアとして魅力を創出する民間主導の取組、have a yokohama

市民団体である「よこはまかわを考える会」による大岡川カヌーフェスティバル

街並みをつくる

なぜその街を訪れるのだろうか。
生活がにじむ、歴史がにじむ、楽しさがにじみ出す。いってみたい、歩いてみたい、まちに活気があふれ出す。街並みは何でできているだろうか。建物、樹木、歩道、街灯、行き交う人々、目に飛び込むあらゆるもの、感じるもの全部。街の豊かな個性は、あるもの、つくるもの、全てから生まれている。

1階部分の壁面後退やボンエルフ型の道路整備等が地元商店街主導で行われ、来街者が楽しく過ごせる元町商店街

みなとみらい開発の中で、市民に開かれた水辺空間として整備された臨港パーク。湾曲した海岸線は、ベイブリッジを焦点とする

夜に魅せられる

夜は昼間とは違う街の魅力が現れる。
当たり前の日常にも、特別な日にも、街には夜の顔がある。
光で際立つ街の個性、暖かな雰囲気の通り、きらびやかなイベント。
夜も街は人々を受け入れる。

アートと省エネ技術が融合した光のイベント、スマートイルミネーション

ライトアップされる港のシンボル、横浜ベイブリッジ

活動の場はいつもそこに

見たい、見せたいと思ったら、誰かがいる、そんな場所がある、
気持ちを分かちあう、考えを巡らせる、また新しいことが始まる…
アートや創作の場をつくったり、
見たり参加できるイベントをサポートしたり、
街に活動という動きを与え活性化を促します。

アートとクリエイティビティで都市を活性化する創造界隈拠点、BankART1929

アーティスト・クリエイターの事務所を公開するイベント、関内外OPEN!

どこまでも美しく

大きな街並みから小さなベンチまで、
広い場所から長い通りまで、賑わいから静けさまで…
街の様子の変化や、街の広がりの変化、行き交う人や活動との出会い、
様々な変化のリズムがあり、街自体に愛着や馴染みや感情をともなったとき、
そこに美しさのようなものを感じている。

国際公開設計コンペを経てデザインされた、大さん橋国際客船ターミナル

歴史的建造物や銀杏並木に調和し、腰もかけられる日本大通りの植栽防護柵

Designer ／高橋啓祐 Keisuke Takahashi

映像作家。美術館、ギャラリー、劇場、パブリックスペースなど多様な空間で作品を発表。横浜を拠点に映像インスタレーションとともにパフォーマンスも展開し、身体と映像の関係性を追求している。ダンスカンパニー「ニブロール」では設立時より映像ディレクターを務め、舞台制作にも力をいれている。

50年間で実践された取組の多くは、過去の取組から連鎖し、試行錯誤しながら関連・派生していきました。中でも「歩行者空間の展開」「歴史を生かしたまちづくりの展開」「都市デザインを推進する連携の展開」の3つのテーマから、時代背景の変化とともに取組がどのように変遷・蓄積し、現在へ繋がっているのか見てとることができます。

都市デザイン手法の展開

横浜の都市デザイン活動は「歩いて楽しい街」を皮切りに、５０年かけてそのテーマや取組、エリアを拡大させて来ました。これは「魅力と個性ある人間的な都市」「７つの目標」といった普遍的な価値観を持ち続けながら、場所の特性やその時々の実情に合わせて柔軟に「実践的都市づくり」を行ってきた結果でもあります。

ここでは主な都市デザイン手法を題材に、その展開を見ていきます。

004

およそ200におよぶ代表的なプロジェクト。時系列に並べるだけでも圧巻です。

歩行者空間の展開

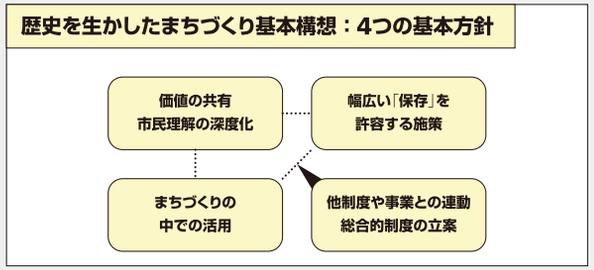
都市デザイン初期の取組である「大通り公園」～「くすのき広場」～「開港広場」の整備にはじまり、日本大通りでは歩道拡幅に合わせてオープンカフェのしくみづくりにも取り組み、陸と海を結ぶ形で人の居場所づくりを積み重ねてきた「緑の軸線」。一方、水際線に沿っては、当初山下公園でしか市民が海に近づけなかった状況から、臨港パーク、赤レンガパークなど、開発に合わせて次々と水辺を開き、汽車道～ナビオス横浜～赤レンガパーク～象の鼻パーク～臨港プロムナード～山下公園（世界の広場）～ポーリン橋～人形の家～フランス橋～港の見える丘公園という3.2kmに渡るプロムナードの連続が実現。50年の積み重ねがあってこそのスケールのデザインと言えます。

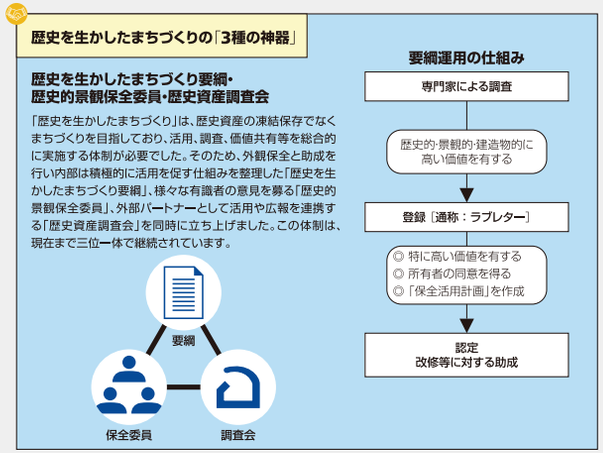
緑の軸線とウォーターフロント軸

日本大通り

歴史を生かしたまちづくりの展開

横浜はその複合的な歴史から、近代建築、西洋館、社寺・古民家、土木遺構といった歴史資産を抱えています。「歴史を生かしたまちづくり」では、これらの保全活用を通じて都市の記憶を残し魅力を作り、並行した調査や普及啓発を通じて理解を深めることを目指しています。こうした活動を継続している横浜ですが、1970年代には文化財の対象となる歴史資産は少なく、それらも徐々に姿を消していました。そのため、少ないからこそ残さねばという思いからまちづくりの中で歴史的建造物の保全活用を行い、総合的な対策として要綱・保全委員・調査会の仕組みを整え「歴史を生かしたまちづくり」事業を開始しました。代表事例は赤レンガ倉庫、山手西洋館、長屋門公園、汽車道など。市民が歴史に触れながら、それを魅力と感じられる場を目指し、活動を継続しています。





都市デザインを推進する連携の展開

くすのき広場の整備に始まる「歩行者のための空間」という考え方は、馬車道をはじめとする商店街の歩道拡幅や歩行者モール化等の地域による取組に発展していきました。郊外部においては、和泉川や大岡川等で、地域の魅力資源である川や緑地を生かしたまちづくりを、市の職員と地域住民が一体となって取り組んできました。1991年開催のヨコハマ都市デザインフォーラムを契機に都市デザイン室内に市民まちづくり推進担当が設置され（のちに地域まちづくり課として独立）、様々なテーマを持った市民によるまちづくりを推進する体制を構築しました。また、みなとみらい21地区等における民間企業によるエリアマネジメント活動や、民間活力によるバス停上屋の整備など企業による魅力ある都市空間形成をしくみづくり等で応援するなど、様々な主体の活動と連携し、都市デザインの取組は進められています。

Designer ／ NDC Graphics

デザインディレクター中川憲造により設立。横浜を拠点に生活者の視点から「気持ちのいい生活デザイン」をめざすデザインスタジオとして活躍。「チョコレートからヒコーキまで」そのデザイン領域は多岐にわたる。国土交通省制定「公共ピクトグラム」のデザイン、銀座カリーの商品開発とブランディングなど。

4つの大学による日本大通り模型製作

関内エリアの中心に位置し、かつての開港の地象の鼻エリアと横浜公園を結ぶ開港を象徴する都市軸、日本大通り。
通りに面した歴史的建造物の多くは震災復興時につくられたもので、当時の建物が活用されている旧三井物産横浜ビル、低層部を保全しつつ高層棟をセットバックして増築した横浜情報文化センター（旧横浜商工奨励館）、高層棟建築に合わせ一度解体したのち外観を復元した横浜地方裁判所など、建物ごとに様々な手法を駆使して、歴史的な街並みを形成しています。

様々な手法で保全活用されている歴史的建造物や、歴史的な街並みに合わせてデザインされた日本大通りを、横浜にゆかりのある4人の建築家の方々にご協力いただき、各々がご指導されている4つの大学の学生の皆さんに、3つの建物とベースとなる通りの4つのパートを、1/50の精巧な模型として製作していただきました。
コロナ禍で一堂に集まることが難しい中でしたが、リモートでのコミュニケーションやデータのやりとりを密に行い、最後に現地でひとつの大きな都市模型として合体。完成されました。最初の打合せから製作時間5か月という短い期間ながらも、3Dプリンターも駆使し学生の皆さんの丁寧で高い技術によって作られた模型は再現性が大変高く、多くの来場者が足を止め、カメラを向けていました。

■ 神奈川大学工学部建築学科
［曽我部・吉岡研究室］ 曽我部昌史　吉岡寛之　井口翔太　木嶌崚貴　酒井優人　谷本優斗　檜原杏奈　林淳平　永高裕太
［中井研究室］ 中井邦夫　伊藤伸一郎 小澤美月 中澤実那
［山家・上野研究室］ 山家京子　上野正也　日下紗菜　城所真緒　菅野麻衣子　松村美里　林眞太朗　三谷隆介　丹羽航平
［六角研究室］ 六角美瑠　石谷慶　嶋谷勇希　鈴木碧衣　立田大喜　半井雄汰　二見陸
［内田研究室］ 内田青藏　髙田晃

■ 関東学院大学建築・環境学部
［柳澤研究室］ 柳澤潤　浅見勇雲　井川日生李　植松駿　栗原将希　佐藤香絵　佐藤友亮　柴田寧々花　瀬尾知靖　田崎太一　手塚梨玖　長橋佳穂　馬場夏月　平井美柚　眞那子茜　森貴一朗　山岸三四郎
■ 東京都立大学都市環境学部建築学科
［小泉研究室］ 小泉雅生　木下央　生田拓也　坂口雄亮　佐藤伶香　重政幸一郎　廣瀬貴大　星野創　山田明日香　廖学武　渡邊建斗
■ 武蔵野美術大学造形学部建築学科
［高橋スタジオ］ 高橋晶子　岩穴口颯音、三原陽莉
［長谷川スタジオ］ 長谷川浩己　長谷川ゆい、王雪純

文化芸術創造都市

都市デザインとはハードとソフトの両輪、兄弟的な施策である創造都市。4月の“延長”展に入り、BankARTの池田さんが望んでいた「文化芸術創造都市」のコーナーを新設し、その関係がより分かりやすくなるようにしました。

GOOD Anatomy

横浜・風景の解剖

横浜を代表するいくつかの風景。都市デザインが積み重ねてきた多くの工夫によって、今の姿があります。しかし、説明を聞かずにその仕掛けに気づくことは難しいかもしれません。

最後のコーナーでは、横浜を代表する写真家・森日出夫さんの風景写真から、都市デザインの痕跡を取り出して、紹介します。

005

良いな、と思う風景の裏側には、良いなと思わせる取組が実は隠されているかもしれません。そんな、まちづくりの裏側に意識を持っていただきたく、トリビアや種明かしのような形で「日本大通り」「象の鼻パーク」「大さん橋～みなとみらい21新港地区～中央地区」「北仲通地区」「金沢八景駅周辺」「金沢区総合庁舎／金沢公会堂／泥亀公園」「港北ニュータウン」の７つの風景を解説しています。

1 日本大通り

取組の積み重ねがつくり出す、街のシンボルロード

かつての日本人街から外国人居留地への延焼を防止するために36mの広幅員で整備された日本最初の西洋式街路。沿道に建ち並ぶ歴史的建造物を保全活用するとともに、その雰囲気を尊重するため、地区計画により高層部のセットバック等が規定されています。2002年には再整備事業が行われ、歩道拡幅、鋳物のストリートファニチャーや自然石での舗装整備等がされました。また、オープンカフェの社会実験が行われ、2006年以降本格的に実施されています。

2 象の鼻パーク

「開港の地」から、市民の憩いの場へ

のちに「象の鼻」と呼ばれる2つの突堤が、横浜のまさに「開港」の地である港でした。開港150周年を機に50歳以下を対象に設計プロポーザルを実施。「象の鼻パーク」として再整備・公開されました。パーク内に円形に並ぶ「スクリーン」は夜は光り、ここが「開港の地」であることを明示しています。象の鼻の形の突堤も復元され、海中から引き揚げられた当時の石積みが、パーク内の随所に活用されています。

3 大さん橋〜みなとみらい21新港地区〜中央地区

歴史と新しさが折り重なって つくられる「横浜らしさ」

開港以来の歴史を大事にしながらも、新しいものを受け入れる進取の気質溢れる横浜。大さん橋から眺める風景もまた、かつての港湾施設の歴史を感じさせる赤レンガ倉庫を中心とした低層の街並みと、その向こうに建ち並ぶ白くて高い高層ビル群の街並みとが積層し、「横浜らしさ」を象徴しています。

新旧の重なり

#歴史 #新しさ #コントラスト

新しい業務地区として計画されたみなとみらい21中央地区は白系の高層ビル群。その手前に港としての歴史を今に伝える赤レンガ倉庫と、それに調和する茶系の低層建築群が並ぶ新港地区。さらにその景色を囲む場所、大さん橋は、斬新な建築デザインとなっています。新旧の街並みを重ねることで、それぞれの特徴を際立たせ、横浜らしい風景を生み出しているのです。

歴史ある新港地区に最新のイベントを重ねる

女神橋

#プロムナード #カーブする海岸線
#ウォーカブル

中央地区と新港地区、2つのウォーカブルな街をつなぐ女神橋。両地区の水際線がベイブリッジを意識してカーブしているため、女神橋もこれに合わせて曲線を描いています。

女神橋

歩行者空間

#都市軸 #プロムナード #ウォーカブル

みなとみらい21地区には、都市デザインの大事なテーマである「歩行者を大切にする」という思想が生かされています。中央地区には、キング軸・クイーン軸・グランモール軸の3つの主要な歩行者軸が設定されており、歩いて楽しい街となっています。新港地区の主な入口である汽車道は、その名の通り汽車（貨物線）の跡地を歩行者専用のプロムナードに再利用したもの。海の上を渡っているような感覚が味わえます。

上｜汽車道
下｜グランモール軸

港の歴史を伝える生き証人

#歴史 #1号2号ドック
#ハンマーヘッドクレーン

新しい街として一から計画した中央地区は、元々は造船所や旧国鉄貨物線操車場のあったエリア。横浜ランドマークタワーの足元に残されている2号ドック（造船や船の修理を行う場所）は、ドックヤードガーデンとして生まれ変わり、日本丸を浮かべる1号ドックと共に、港としての歴史を今に伝えています。新港ふ頭突堤の先に建つ荷役用のハンマーヘッドクレーンは関東大震災にも耐え、1970年代にその役目を終えた後も、稼働可能な状態で保存されており、新港ふ頭のシンボルとして大切にされています。

上｜ドックヤードガーデン
下｜ハンマーヘッドクレーン

4 北仲通地区

関内とみなとみらい、2つの街の交わる場所

関内地区の北端に位置し、開港後は生糸検査所や関連する倉庫など、輸出の拠点施設があるエリアでした。低層部にはそうした歴史的建造物を保全・活用し街並みを形成し、高層部は隣接するみなとみらいとの繋がりを意識した軽やかなデザインとされています。

新市庁舎模型

関内とみなとみらいの間の表現

#高層部 #白い #第二のスカイライン #低層部 #レンガ基調 #ルール

北仲通北地区は、新しい街・みなとみらいと歴史ある街・関内の間の結節点として、高層棟をみなとみらいと同様に白色基調とし、低層部は関内や生糸のレンガ倉庫を意識した茶系の街とするよう、誘導しています。また高層建築は、横浜ランドマークタワーを頂点としたスカイラインを描いて水際線の街並みを創出するほか、万国橋通り沿いは低層部の軒の高さ（おおよそ20m）と素材感を揃え、新港地区へとつながる統一感を生んでいます。北仲通南地区は、地区内の歴史的建造物である旧第一銀行横浜支店に合わせ、低層部・高層部ともに白色を基調とした、統一感ある建築群となっています。

北仲通北地区高層部と老層部の概念図

通景

#ウィスタ #見る #見られる

北仲通北地区の真ん中を貫く道路の先には横浜ランドマークタワーが見えます。これは偶然ではなく、計算された風景。さらには、グランモール公園から桜木町方面を見ると、その先にザ・タワー横浜北仲が見えるのも、計画された配置です。

上｜北仲通北地区の通景
下｜グランモール軸の先に見えるザ・タワー横浜北仲

歴史的建造物

#生糸 #倉庫 #港湾施設 #銀行建築 #護岸

北仲通地区にはかつての輸出産業を支えた生糸を保管する倉庫とその事務所棟、旧横浜生糸検査所のほか、万国橋ビル、旧第一銀行横浜支店などの歴史的建造物が様々な形で残されています。所有者や建物の状況に応じた保全手法をその都度編み出して来たため、その保全手法は現物保全から復元、さらに部分保全、旧材の利用、曳家、パーツの展示などと、まさに様々です。横浜市役所敷地内にも工事中に出土した旧護岸や旧煙台寮の排水施設等の遺構の数々が展示されています。

旧横浜生糸検査所附属倉庫事務所

BRICK & WHITE（ブリック ホワイト）

#創造界隈 #歴史的建造物 #シェアオフィス

北仲通北地区では、旧横浜生糸検査所のレンガとコンクリートの2つのビルをブリック&ホワイトと呼び、暫定的にクリエイターやアーティストに提供したことで、横浜の外からも多くの人が来て器を構えました。暫定期間終了後、彼らの多くが関内や周辺にアトリエを構えたことから、横浜の創造界隈形成に大きな役割を果たしました。このうち「ブリック」の愛称で親しまれた事務所棟は現物保存され、現在はシェアオフィスとして活用されています。また、新たな建物名称に「北仲ブリック&ホワイト」が継承されています。

北仲ブリック&ホワイト

新市庁舎デザインコンセプトブック

#開かれた市庁舎 #市民活動 #水辺 #アトリウム

市庁舎が横浜市のある種のシンボルとなるとしたら、150mの高層ビルとしてではなく、低層部が開かれて、市民活動を支えるステージとしてであってほしい。そんな思いを関係者が共有し、建築計画に繋げるため、デザインコンセプトを作成しました。商業施設やアトリウム、市民活動支援センター、プレゼンテーションスペース、水辺の外構など、大小様々なスペースが市民の場として開かれています。

横浜市新市庁舎コンセプトブック・抜粋
（作成補助 abamba、STGK）

5 金沢八景駅周辺

横浜 南の玄関口として
歴史ある「金沢らしさ」をつくる

区画整理事業に際し、鎌倉文化の影響を受け、風光明媚な別荘地としても個性ある金沢エリアを象徴する駅前の街並みを官民で形成するため、「和モダン」というデザインテーマを共有し、縦格子や切妻屋根といったデザインモチーフにより表現しています。

6 金沢区総合庁舎／金沢公会堂／泥亀公園

金沢らしさと
三位一体のデザイン

通常は別の設計・デザインとなる庁舎と公園ですが、金沢らしさを感じられる場所となるよう、総合的にデザイン。金沢八景駅と同様の縦格子や切妻屋根のモチーフに市松模様も加え、3つの施設に和の雰囲気の繋がりを持たせています。

7 港北ニュータウン

将来まちの財産となるような、
質の高い住宅地を計画する

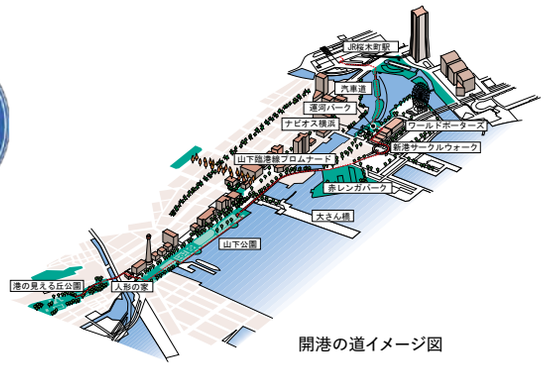
六大事業のひとつとして、「乱開発の防止」「都市と農業の調和」「市民参加のまちづくり」を基本理念に、計画的に開発された住宅地。「グリーンマトリックス」という公・民所有の多様な緑地を連続させており、総面積90ヘクタールに及ぶ緑地や約14.5kmに及ぶ緑道のネットワークなどが元の地形を生かしながら配置されています。

Designer ／ 伊藤 祐基 Yuki Ito

2011年愛知県立芸術大学大学院美術研究科修了。同年STGK入社。ランドスケープデザインを経験した後、2017年に半独立。現在はSTGKでのサインデザイン、環境グラフィック、エディトリアルデザイ ンなどを手がけつつ、フリーランスとしても活動。

個性ある街を歩くような展示会場

「個性と魅力あるまちをつくる」という副題のとおり、街の多様性を大切にしてきた都市デザインの活動を、展覧会場でも体感してもらおうと、5つのコーナーを5人の都市デザインに縁深いデザイナーに担当してもらいました。それらのコーナーの随所には、実際の街にもある街を楽しみ様々なしかけも再現しました。



開港の道イメージ図

JR 桜木町駅から、港の見える丘公園に至る約3.2km の歩行者ルート、“開港の道”。

「神奈川県庁本庁舎」「横浜税関本関庁舎」「横浜市開港記念会館」の愛ある総称「横浜三塔」。この三塔が一目で見られると願いが叶うという都市伝説があり、“三塔ポイント”と呼ばれている。

「歩いて楽しいまちづくり」の実践として、桜木町・関内・石川町の3 駅から、当時唯一市民が楽しむことの出来た水辺である山下公園に至る歩道上に設置されている”絵タイル”。

会場設計／ abanba inc.

番場俊宏が代表を務める、横浜を拠点に活動する設計事務所です。建築、インテリア、家具、都市計画など、さまざまな分野のデザイン、設計やまちづくり活動を行っています。横浜で活躍する他の分野のデザイナーやアーティストとの協働も積極的に取り組み、展覧会の会場構成なども手がけています。

abanba

イベント

展覧会期間中、様々な年代の方にご来場いただき、特にこれまで都市デザインを知らなかった方にも参加し知っていただくために、様々なイベントを開催しました。

ワークショップ Presented by キタムラ

「未来の横浜」を、キタムラオリジナルエコバッグに描くワークショップを開催しました。

開催日時＝3月26日[土] 11時、14時／27日[日] 11時、14時（計4回）

各回定員4名→**募集開始後5日で、全回満員!**

チケット購入者対象
参加無料

親子で楽しむ

未来の横浜を一緒に作り上げませんか? SDGsオリジナルエコバッグ作り開催!

布描きクレヨンで未来の横浜をバッグに描き、地球にやさしいオリジナルエコバッグを持ち帰りましょう。企画◎株式会社キタムラ

参加者より事務局に寄せられたコメント

エコバッグ作りに参加できるとのこと大変嬉しく存じます。
今月は娘の5歳の誕生日月となります。娘は工作をはじめ、手を動かすことが大好きでして誕生日の記念に親子で参加できればと申込させて頂きました。（T様）

4月より1年生になる娘と参加させて頂きます。
楽しみにしております。（A様）

エコバッグ作りですが、孫は大変楽しく参加できたようです。ありがとうございました。（S様）

「勝手に＜都市デザイン横浜30年＞展」

会期中、NDCグラフィックスさんのオフィスギャラリーでも、NDCグラフィックスと都市デザインの30年の歴史を記念した展示会を開催してくださいました!

職員による解説ツアー

一般向けとしては、展示だけではちょっと難しいかもしれない都市デザイン。混雑時を避け、仕事帰りにでも寄れるような夕方の時間帯を中心に、職員が日替わりで担当し、解説するツアーを開催しました。ときに30名を超えるご参加や、3回以上参加されるリピーターもいるなど、大変ご好評いただきました。

**開催日時＝3月8日～11日、14日～17日、22日～24日、
4月5日～8日、12日～14日、19日～21日
17時45分～18時30分**

番外編！国吉会長による解説ツアー

初代都市デザイン担当であり、50年に渡り横浜の都市デザインを牽引されてきた国吉会長による解説ツアーを限定開催。受付開始とともに用意した枠が即時埋まるほどの大盛況となりました。

開催日時＝4月9日[土]、16日[土]16～17時

「次代へ繋ぐ、横浜の魅力づくり」

展覧会に合わせ、NPO法人横浜シティガイドさんによる、都市デザイン50周年記念ガイドツアーを開催いただきました!

開催日「テーマ」：3/23「人に優しく歴史をいかした街・関内」／4/8「金沢今昔　古民家のある公園誕生!」／4/15「港北ニュータウンの今! 農専地区へ」／4/19「官民協働で創る、山手の景観」

ウェビナー「都市デザイン 横浜のこれまでとこれから」

スマートシティインスティテュートさんが広報協力として、横浜の都市デザインのこれまでとこれからについてディスカッションするウェビナーを開催してくださいました!

開催日：4月18日／ホスト：南雲岳彦氏（スマートシティインスティテュート専務理事）／ゲスト：藤原徹平氏（建築家／横浜国立大学）

のりば Gates
2 横浜 渋谷 池袋方面
for Yokohama, Shibuya, Ikebukuro
元町・中華街方面
for Motomachi-Chukagai
1
のりば Gates
急告
SALUS

馬車道駅展示

馬車道駅コンコースでは2/19 ～ 4/24の期間、展覧会の拡張展示兼広告として、関内周辺の歴史的建造物と馬車道商店街・元町商店街・山手地区の写真展示を行いました。タイトルは「都市の記憶と、継承するデザイン」。馬車道駅のデザインコンセプトである「円蓋が象徴する、過去と未来の対比と融合」に敬意を払いつつ、エリアの歴史とそこに連なる地域のデザインを見せることで、横浜らしさを生み出す活動の意図を伝えることを試みています。

「都市デザイン 横浜」展
～個性と魅力あるまちづくり～
SPIN-OFF

都市の記憶と、継承するデザイン

横浜の都市デザイン手法のひとつである"歴史を生かしたまちづくり"ではしばしば「都市の記憶」という言葉を使います。横浜がいかにして今の横浜になったのか、その過程を街の中に残された歴史資産が今に伝えているからです。横浜中心部は都市としての歴史も浅く、また震災、戦災という二度の被災の経験から、残された歴史資産を正に「都市の記憶」として紡いでいくよう、大切に残す取組を行ってきました。
また、新しいものをまちに付け加える時も、その場所の履歴や、周囲の歴史資産のことを大切に意識します。「都市の記憶」との調和、時に対比的なデザインが、横浜に新たな"らしさ"を生み出していきます。

都市の記憶

神奈川県庁舎
外観の全体構成はクラシックであり、スクラッチタイルとパンチングの柔和な持つ高度が特徴。

横浜税関本関庁舎
正面を通に向けて建ーの記憶建物。「ライン」の変形を持つイスラム教風のドームを持つ高度を備える。

横浜市関清記念会館
「ジャック」の高度を持つ、開港50周年を記念して建てられた様式のランダム。赤煉瓦と花崗岩をミリすぎた設計。

神奈川県立歴史博物館
馬車道に事件経過が通じた本格的様式建築。開港大震災前の横浜の経済的繁栄を象徴する建物で、国指定の史跡である。

東京藝術大学大学院映像研究科校舎
ルスティカ積みが目立つスカーナスタイルの様式が特徴的な高度と義理式建築。平成17年から東京藝術大学が活用。

旧横浜銀行本店別館
旧横浜銀行の歴史を象徴する建物。現在は現在と呼ぶ名称にあったが、バルコニー部分を強調した装置がされた、特徴的ーバルコニーが地域のランマークとなっている。

旧露銀銀行横浜支店
ロシアとフランス資本の銀行の開業銀行横浜支店として建築された。歴史的の建物の高度な特存例。現在は結婚式場として活用される。

横浜山手聖公会
大谷石を用いた結晶を思わせる高度から外観が特徴。設計者J・H・モーガンは、ベーリック・ホールやムサ111番館なども手がけた。

カトリック山手教会聖堂
ネオ・ゴシック風の外観が特徴的な教会建築。ひとまわり高い塔は、山手を代表する景観として親しまれている。

横浜海路会
国内最初期のプロテスタント教会。ノーマン・デムル聖堂に似た様式だが、聖堂で使われた先代の教会堂とならい・ド方の塔を加えて。

横浜開港資料館旧館
日本和風為的建築の地付近に建つ英国総領事館を横浜市が買い取り開港資料館としたもの。ジョージアン様式を思わせる堅牢な建造物。

ペーリック・ホール
現存する山手外国人住宅の中で最大規模を誇ったコスモ・ニュッシュスタイルの洋洋館。アーチ型の窓や壁面などを和な意匠を備える。

山手234番館
外国人向け貸間業合住宅として富士見丘に建てられた洋洋館。本成元年に市所有となり、市民と協働した活用実験を経て平成11年度に公開された。

旧レンガ倉庫
[1号倉庫及び2号倉庫]
元は大震災の校関倉庫であった煉瓦コーマのランガ。1号倉庫は歴史で最初の切ったった。平成14年より文化商業施設として活用されている。

継承するデザイン

山手地区
山手は横浜開港後、異の高い当初地として開発規開発された。「山手」の名は、当に国要の大国内の開発地に対し用の高台と上に設けられたことからなされたの。英語では「高」を意味する"Tha Bluff"と呼ばれた。1923年の関東大震災で被災的な被害をのこ、その後、西洋風や地色、ヒッシュシクールなどが施設され、現在の姿あ中国が作られた。西洋第に上海歴史の関東以前代に解放者たの国から、日本に近現きれた用地を活用した公園整備や、公園内には生涯国等が常駐され公園、公共施設の整備が進むとともに、マンション型アームが建まりは手地区にとってのさまざな魅力は、それに相対するように洋風本庭のおスペイン様式が相ぶった。

山手は市内でも最も「異国情緒"を感じさせる地区であり、住宅地・文教地区であるとは同時に文化・レクリエーション地区でもある。これを新たのは西洋風などと関係性の強い教会・学校・教会や不動産・居住型も施設

1960年には山手まちづくり委員会が発足し、山手220番館運営実験やチューリップアーチプロムナード、山手国道修復などに市民が関わるようになる。その後活動は継続し、2002年には小まちづくり推進会議が発足し、聖観ホップ通ー海岸の調査、赤道ホの市民計画実施、聞かスペイ小事業等が始まる等で行われた。2020年には聖観計画と都市景観協議地区を指けた。

このように山手では、日外国人居留地ならではの歴史や国際性、歴史風景を生かしながらのまちづくりが実施されるなどの成果整備や大携活動区間の共事業の調整に都市デザイン室が関ったことをきっかけに地区の手法整備や西洋風景全活用事業等が行われ、第二の共参画を通じて様々に官民共同による都市のまちづくりが実現されていることとなる。

1982年には山手地区基本構想が制定され、住民参加のもとに諸住環境の維持向上を図ることが明文化された。

元町商店街
元町商店街は、山手と国内の居留地を結ぶ外国人の動線上にあり、開いた明治に開発をする者が集まり始まった。震災・戦災と試練所しながらも復興第2期を経験し、2000年代に入ってからは、ターゲットとして現代に合わせて商店街活性化を作り変えてきた。現在も元町活性化委会、元町エスエス会、元町ビエル会、元町活性化プロジェクトなどが活動されている。

元町のまちづくりは1955年の観光商店街に始まる。当初の元町通りは幅が狭く、約20年かけて道路拡了工事を整備実施し、路面型の本行道整を設置した。商店街は設備したが手付者や事の調整等の課題が残り、続けて1960年の道路対策開始、歩ーづ行政正規、マーケティング戦略を金融に実施まちづくりが実施された。この全体調整を都市デザイン室が担当し、開発の不の全整備と元町エスエス会による商ーづ行事委員会等の調整を図り、総合的に取組みを進めた。これにより手道区域や電線の地中化等を進めたオンリエス型の街路整備、路上駐車禁止ストリートファニチャー、フェニックスアーチ等の設置が行われた。第二元町通りでは協定協議会は日本人をターゲットとし現代に合わせて商店街活性化を作り変えてきた。現在も元町活性化委会、元町エスエス会、元町ビエル会、元町活性化プロジェクトなどが活動されている。

元町のまちづくりは1955年の観光商店街に始まる。当初の元町通りは幅が狭く、約20年かけて道路拡了工事を整備実施し、路面型の本行道整を設置した。商店街は設備したが手付者や事の調整等の課題が残り、続けて1960年の道路対策開始、歩ーづ行政正規、マーケティング戦略を金融に実施まちづくりが実施された。この全体調整を都市デザイン室が担当し、開発の不の全整備と元町エスエス会による商ーづ行事委員会等の調整を図り、総合的に取組みを進めた。これにより手道区域や電線の地中化等を進めたオンリエス型の街路整備、路上駐車禁止ストリートファニチャー、フェニックスアーチ等の設置が行われた。第二元町通りでは協定協議会は日本人をターゲットとし現代に合わせて商店街活性化を作り変えてきた。現在も元町活性化委会、元町エスエス会、元町ビエル会、元町活性化プロジェクトなどが活動されている。

馬車道商店街
馬車道は開港直後から横浜港を結ぶ動線の一つとして1868年に開設された。名の由来には諸説あるが、海外から持ち込まれた馬車が走ることが出来たことが由来とされる。国内の商業文化の玄関口として役割を果たし、ガスの灯がマーイスクリーム屋発祥で「日本初」の何を行ったものも多く。

馬車道では、来車による接客中心の新しい横浜要素に商業地区は対照的に地盤面下の地下に、あっと商店街を活性化するため、観光商はよりアクセス商店商業第1期1年に設置される。くすのきに囲のような歩行者空間の動力自と1重点を加いた商業にしたいとの商店街整備が、都市デザイン室を中心に整備なとな、観光商・道路商・観光商なとを結ぶ検討時間を設置した。2年の検討を経て、伝建物地区調査の1・2期をトレハッケ中商、観光商の形成を定めた。全国初の自主運営による「街づくり協定」を定めた（1975年）。これにあわせ道路内の車道を現状の歩道を拡幅し、レンガタイル調整や海外のストリートファニチャーを取り入れた整備を行い、現代商業道区域や西欧都心整備を行った。これら商業道路区間の第一期をもってリは、その後イキサモーケ今で続く。これら商業道路区間の第一期をもってリは、その後イキサモーケ今で続く。

2000年代にはみなとみらい線開業と連動が建設され、商店商用整備が計画され、歴史を活かした本物志向の大人な街を目指し通りのオスプ化をさて本物に変更するとともに、プキュルの商路機を通じ新たな観察神や空間を地元民自で整備・管理することで、新しい観光を実現した。2004年には馬車道地区地区計画の決定や「馬車道まちづくり協定」の地域まちづくりルール設定を行うと、新たな開発を取り入れつつ歴史遺産のまちづくりが進められている。

開催結果概要

開催結果概要

（1）来場者総数：10,385人　※3/5 ～ 4/24の延べ人数

（2）カタログ販売数：3,045冊　※通販含む

→有料入場者の27%がカタログを購入

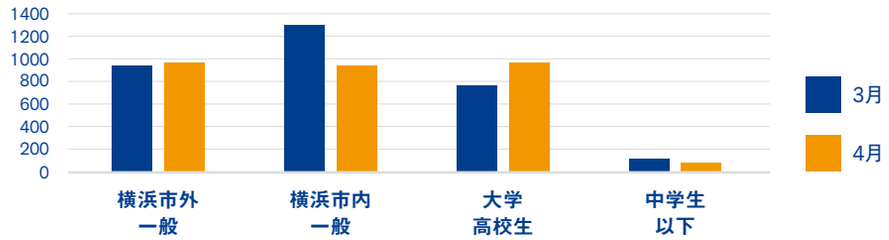
（3）来場者内訳　※カタログセットを除く有料入場者中

→属性として横浜市民（一般）が最も多い

→4月に延長し、学生が最多となった

▼来場者数 ※4月は月曜休館

▼来場者内訳 ※カタログセットを除く有料入場者のみ



メディア露出

2022.2.28-3.6　鶴見区ケーブルテレビ局YOUテレビ「地域のインフォメーション」コーナー
2022.2.28/3.1　ラジオ日本「ハロー横浜」
2022.3.3　ヨコハマ経済新聞
2022.3.5　神奈川新聞　朝刊
2022.3.8　建設通信新聞DESITAL
2022.3.9　読売新聞　朝刊
2022.3.11　OZマガジン4月号　TOPICS＆PRESENT
2022.3.11　週刊アスキー
2022.3.15　横浜市交通局ツイッター
2022.3.16　横浜観光情報（横浜観光コンベンションビューロー WEB）
2022.3.25　神奈川新聞　朝刊
2022.3.26　神奈川新聞　朝刊社説
2022.3.26　マリンFM　Ready For Flagship
2022.4.22　美術手帖WEB 「スコットランド国立美術館の名品から横浜都市デザインまで。今週末に見たい展覧会ベスト4」

都市デザイン 50年振り返る

横浜街づくり 50年の計

まちづくりの軌跡振り返る
きょうから 横浜で「都市デザイン」展

広報

・みなとみらい線サイネージ
・野毛ちかみちデジタルサイネージ

アンケート結果

会場内およびウェブ上（QRは会場に掲示）にて、展覧会及び都市デザインに関するアンケートを実施しました。

（1）アンケート回答者数

アンケート用紙294人＋WEB193人＝計487人

（2）回答者属性（右グラフ参照）

（3）設問

Q1. 展覧会を何で知ったか（右グラフ参照）

▷「友人・知人から」に次いで「SNS」が多く、口コミで評判が広がっていったと考えられる

Q2. 展覧会に何を期待してきたか（右グラフ参照）

▷「都市デザインを知る」ためが最も多いが、次いで「横浜のまちを知る」が多く、横浜のまちづくり自体を知りたいと思う人が一定数いる。

Q3. 展覧会への満足度（右グラフ参照）

▷9割以上の来場者が満足している。

Q4. 展覧会への満足度の理由（自由意見、抜粋）

［横浜の魅力について］

- 横浜に住んで20年以上経つが、知らない事がとにかく多すぎる事に気付かされた。
- 横浜の景観や場所はとても好きだったが、その理由の詳細がわかった。
- 普段見慣れていた風景の中にも、道路や壁面、色彩などのデザインの工夫が施されている事を知り、普段の景色が全く違って見えた。
- 都市デザインについて、あまり興味がなかったが、今回参加できて様々な人が都市作りに携わっていることを知ることができてとてもおもしろかった。

［展示物・展示のしかたについて］

- 多様な横浜の街の特徴が大画面で体感できた。
- 精巧な模型を見られた
- 背景がよく分かったので予備知識がなくてもその後の展示を楽しめた。

［都市デザインについて］

- 都市デザインの歴史を時系列を追って知れた。
- なかなか50年にわたるまちづくりの歴史を一気に観ることができる機会はない

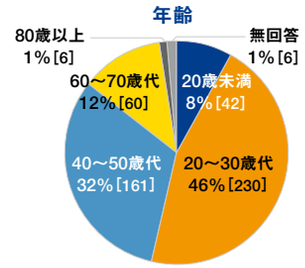
▷「都市デザイン」に拘らず、一般の人も含め、横浜の景観や魅力の理由が知れたことへの満足感が高い。

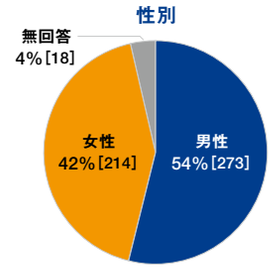
▷取組の背景を知ることで、いつもの景色が見違えるというきっかけになっている。

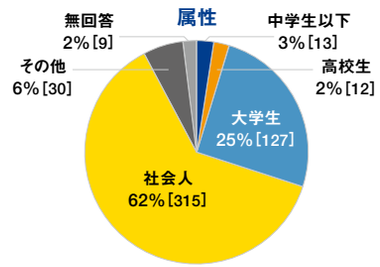
Q5. これからの都市デザインについて（自由意見、抜粋）

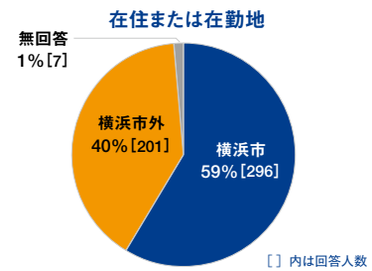
- 臨海部以外のところにも都市デザインの適用を拡げていって（ほしい）。
- デジタル空間等も含めた他領域への展開も期待。
- これからも横浜型として世界中の指標になる、意欲的な取り組みを期待。

（2）回答者属性

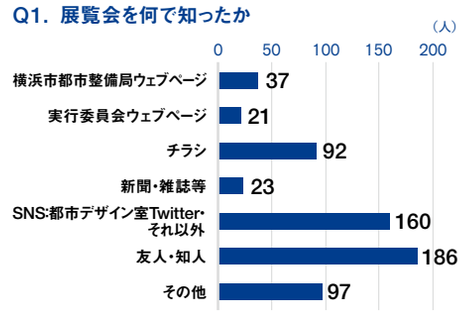


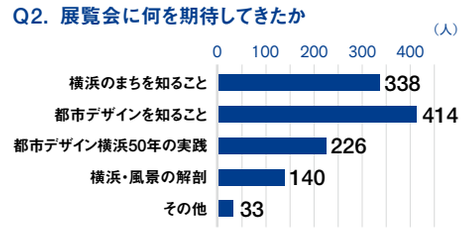


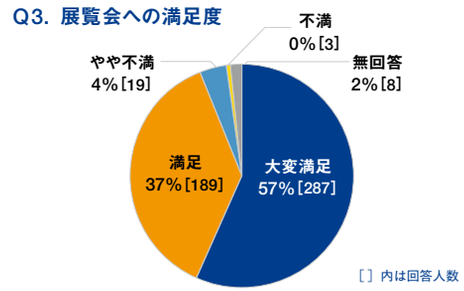


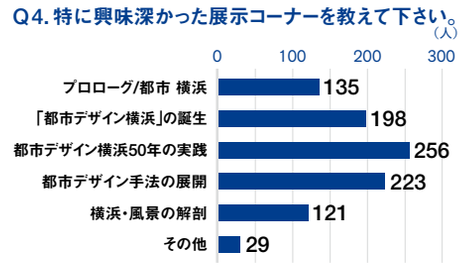


（3）設問









座談会 ～展覧会を終えて～

全国各地からもたくさんの皆様にお越しいただいた「都市デザイン 横浜展」。展覧会を終えて、実際に展覧会にも足を運んでくださった鎌倉市および長崎市の皆様をお招きし、展覧会の感想や、これからの未来の都市デザインについて、想いを伺いました。

上段左から、比留間 彰（鎌倉市副市長）、高尾忠志（長崎市景観専門監）、桂 有生（横浜市職員）、
下段左から、国吉直行（都市デザイナー・横浜市立大学客員教授）、山田 渚（横浜市職員）

1.自己紹介

高尾　長崎市で景観専門監をしています。横浜市との関わりは、景観専門家が庁内にいることが日本に広まってほしいなと、先鋭的な取組の多い横浜にヒアリングで伺ったのがきっかけです。公共事業の指導は10年目になりまして、9月（座談会は2022年7月実施）の新幹線暫定開通に向けた周辺整備や新市庁舎のデザイン、出島の復元、夜間景観刷新事業などに携わっています。

比留間 4月から鎌倉市の副市長をしております。かつて国吉さんのセミナーに参加して、そこで都市デザインを知ったんです。そもそも自治体にこんな仕事があったんだと衝撃を受けました。当時、鎌倉市と横浜市都市デザイン室に人事交流制度があってすぐに応募し、2年間都市デザイン室でまちづくりに関わり、学びました。鎌倉に戻った後も都市デザインのような仕事をしたいという気持ちで都市計画やまちづくりに関わってきました。

2.展覧会感想・スイッチ

比留間 私自身は横浜生まれ横浜育ちですが、元々は特徴のない街であると思っていました。しかし実際は、様々な歴史や特徴があり、都市デザイン室で働いた際、それが意図して作られたものだと気づくことができました。「住みたいまち」になる原因は偶然・必然ではなく理念があることを学びなおす機会となったと感じます。展覧会についても、鎌倉市職員をつれて見に行って、歴史を振返り、話を聞くことでまちづくりのヒントを貰いましたね。しかも現場でやっている人に話聞けたのは大きいと思います。

国吉　都市デザインはまちを魅力的にしていく「運動」だと思っています。当初、特徴もなかった時期に個性、違いをみせていこうとする戦略だったと思います。例え30点・40点でも、時間をかけて積み上げればその都市の特徴になると思ってやってきました。市民とも協力して、時代とともに遊び心をいれるなどしなくては都市の特徴も生まれない。

高尾　展覧会は長崎市長も職員に行くように指示していましたね。横浜の積み重ねを見て、長崎市も「ひと」中心のまちづくりをしようとしています。見た人の「スイッチ」を入れるような展覧会だったと思います。合わせて、都市デザインは市職員だけでやっていたのではなく市民や有識者とやってきて、そういう人が応援団になっている。それが今回顕在化して、都市デザインのプロセス・ムーブメントが来場者数の多さに表れていたと思いましたね。

国吉　まちづくりの担い手の層が厚くなってきたなと感じます。市内にいる「都市デザインに関わってきた」という自負のある人が展覧会で交わりましたね。それぞれの活動団体に良い刺激になったのではないかと思います。

桂　都市デザイン室だけがやってきたのではなく、様々な人が都市デザインを担ってきているので、展覧会も「都市デザイン室」展にならないよう注意していました。内容も一般の方たちにいかに楽しんでもらえるかを意識しましたね。アンケートを見ても口コミで来場いただいた方が多く、20代から30代の方にも多くお越しいただきました。

国吉　比留間さんは鎌倉市の副市長になられて、次の展開をどう考えていますか？

3.文脈の継承

比留間 都市デザインとは活動ではなく仕事の仕方だと思っています。市民活動や行政の関わり方、ということですが、時代によって市民の関心事も大きく変わっていきます。鎌倉は市民活動が活発で、歴史あるものを守ろうという意識がとても強いです。最近では包括ケアなどの福祉に関心が移ってきています。そこに都市デザインが刺さると思っていて、都市デザインの理念をどう受け継いでいくかが大事ですね。単体のプロジェクトを進める時も、より広い視点でどのようにまちの価値を高めていくか、その手助けをするのが私の役目だと思っています。
横浜の「都市の文脈を継承する」という言葉が個人的に好きでして、まちが大事にしてきたものがきちんと表れている。港の雰囲気、海のにおいや音など、それらが安心して暮らせることにも繋がっていると思います。街の個性を問題に合わせながら解いていく。今後はテクノロジーの中で文脈を継承していくことが求められるのではないですかね。

4.積み重ね

高尾　長崎は色々な街がありますが、コンパクトなまちの中にたくさんのキャラクターがあり、一律で長崎らしさという話はしづらいと思っています。冒頭国吉さんも仰った、30点の積み重ねを信じて進んでいきたいと思います。横断的に物事をとらえる体制や仕組みが必要だと感じているので、立場を超えて行動できるようコーディネーターが必要だと思います。横浜の都市デザインはそれをやってきていますよね。風景としてもちろん最終的にきれいですが、ハードだけでなくひとの営みやアクティビティもあるからより魅力的なんだと思います。

国吉　あくまでも最低30点という意味ですよ! 0点か100点を狙いに行くのは危ないという意図です。笑
都市デザインを始めたころは個人プレーだと思われないように意識していました。継承できるコンセプト・デザインにしようと。物語性は時代とともに作り替えていかなければならない。その肉付けをしてくれていたのが市民団体だと思います。

高尾　だからこそ長崎も景観や風景を長崎特有のものにすることを重視しています。交流の街として長崎は始まって、交流があったからこそ長崎という都市が成立しました。交流の産業化が大目標です。コロナの状況になってからこれを言い始めたのではなくて、文脈をフル活用する戦略なので市民にも理解して貰いやすいんです。

比留間 鎌倉では現在市庁舎の移転を検討しています。鎌倉は古都のイメージがあると思いますが、移転先は新しい都市部になるので、新しさと鎌倉の個性を取り入れながら、まちづくりをどうしていくかが課題です。市民に鎌倉を誇りに思ってもらえるようなまちづくりをしていきたいです。

高尾　まるで横浜の都市デザインの始まりの時期のようですね。

国吉　チャレンジできる環境が両都市にはありますね。国の動向に左右されない姿勢を持っていることが心強いなと思います。実験する都市デザインが大事になってくると思っています。

5.未来

高尾　都市デザイン展を踏まえて、これから横浜の都市デザインはどうしていくのかはぜひお聞きしたいですね。

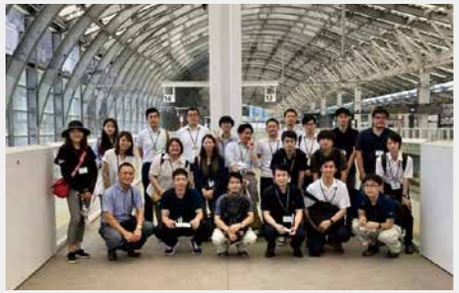
桂　より人の生活に近い、郊外に出ていきたいと思っています。尖ったプロジェクトを郊外でも実践していきたいですね。制度の更新も必要だと感じています。50年があったからといって胡坐をかきたくない。体験や風景を生む取組を通して、横浜は郊外も素敵だなと、横浜の良さを市域全体から感じられるようにしたいですね。

高尾　より持続的な地域となるような21世紀的な価値観のまちづくりを考えたとき、市域全体でビジョンがあると良いですよね。都市デザインの文脈でやってきたから、ではなく市役所としてこうやりたいというビジョンがあることは重要だと思います。

比留間 高齢化や地域コミュニティの希薄化などを包括しながら、接している都市とも連携してグラデーションを生んでいくか、都市デザイン2.0というような、取組みを進めていく必要がありますよね。

桂　これからもお互いの知恵や知見を共有しつつ、一緒にまちづくりを考えていきましょう。引き続きよろしくお願いします。本日はありがとうございました。

鎌倉市：三方を山、前面を海に囲まれた古都・鎌倉。寺社仏閣のみならず、近代建築の保全活用にも前向きである。市庁舎移転を契機に、深沢地区での新しい街づくりにも挑戦している。



長崎市：古くから海外の文化を迎え入れる玄関口として栄え、開港450年を迎えた港都・長崎。新幹線の延伸を契機に新しい街づくりが進む。景観デザインと並走した人材育成にも積極的。

展覧会カタログ

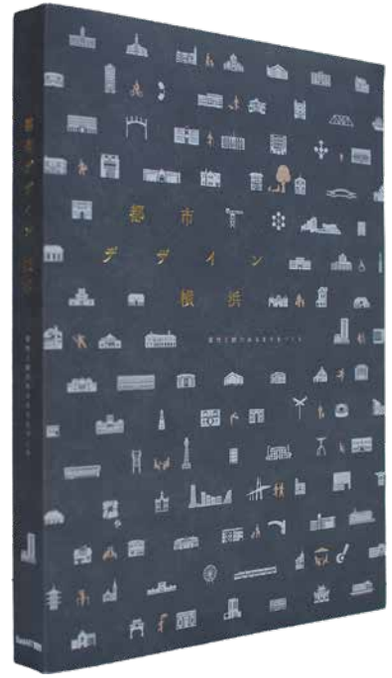
「都市デザイン 横浜｜個性と魅力あるまちをつくる」

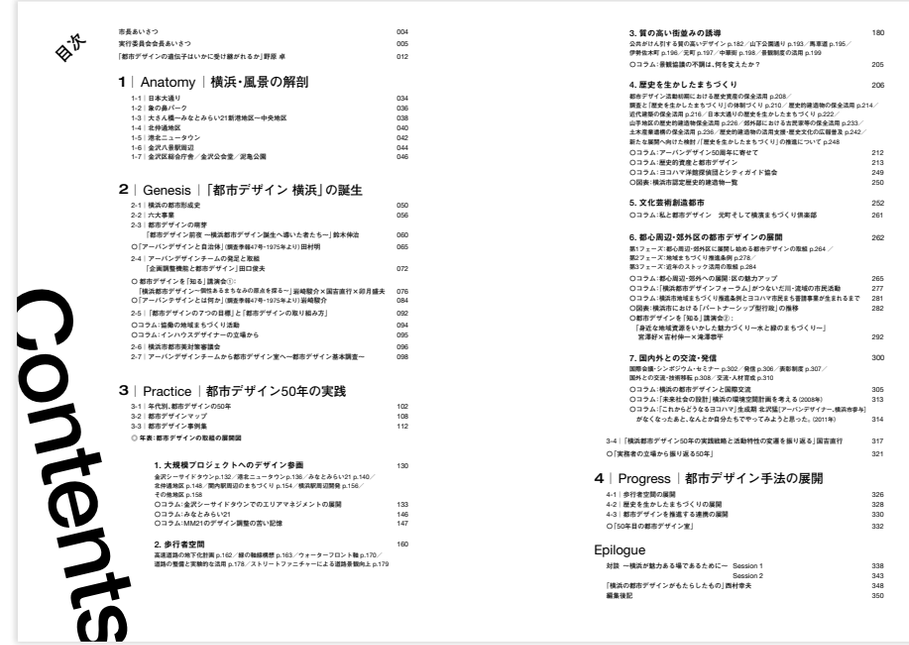
展覧会の展示内容に加え、それだけではお伝えしきれない50年の取組の数々を、関係者のコラムや有識者の論考等を交えながら350ページに渡ってまとめました。都市デザインを知らなくても、横浜の魅力の秘密が分かるような1冊です。

A4判 352ページ／ ¥2,727+税（税込¥3,000）
ISBN 978-4-902736-50-2 C0052 ¥2727E
発行：BankART出版

本のご購入はこちらから

市庁舎2階「HAMARU」でも販売！
（令和4年4月～）





目次

Contents

市長あいさつ 004
実行委員会会長あいさつ 005
「都市デザインの遺伝子はいかに受け継がれるか」野原 卓 012

1｜Anatomy｜横浜・風景の解剖
1-1｜日本大通り 034
1-2｜象の鼻パーク 036
1-3｜大さん橋～みなとみらい21新港地区～中央地区 038
1-4｜北仲通地区 040
1-5｜港北ニュータウン 042
1-6｜金沢八景新周辺 044
1-7｜金沢区総合庁舎／金沢公会堂／泥亀公園 046

2｜Genesis｜「都市デザイン 横浜」の誕生
2-1｜横浜の都市形成史 050
2-2｜六大事業 056
2-3｜都市デザインの萌芽
「都市デザイン前夜～横浜都市デザイン誕生へ導いた者たち～」鈴木伸治 060
○「アーバンデザインと自治体」（調査季報47号-1975年より）田村明 065
2-4｜アーバンデザインチームの発足と取組
「企画調整機能と都市デザイン」田口俊夫 072
○都市デザインを「知る」講演会①：
「横浜都市デザイン一期出ネさきなるみの原点を探る～」岩崎駿介×国吉直行×砂月盛夫 076
○「アーバンデザインとは何か」（調査季報47号-1975年より）岩崎駿介 084
2-5｜「都市デザインのアつの目標」と「都市デザインの取り組み方」 092
○コラム：協働の地域まちづくり活動 094
○コラム：インハウスデザイナーの立場から 095
2-6｜横浜市都市美対策審議会 096
2-7｜アーバンデザインチームから都市デザイン室へ～都市デザイン基本調査～ 098

3｜Practice｜都市デザイン50年の実践
3-1｜年代別、都市デザインの50年 102
3-2｜都市デザインマップ 108
3-3｜都市デザイン事例集 112
○年表：都市デザインの取組の展開図

1. 大規模プロジェクトへのデザイン参画 130
金沢シーサイドタウン p.132／港北ニュータウン p.136／みなとみらい21 p.140／
北仲通地区 p.148／関内駅周辺のまちづくり p.154／横浜駅周辺開発 p.158／
その他地区 p.158
○コラム：金沢シーサイドタウンでのエリアマネジメントの展開 133
○コラム：みなとみらい21 146
○コラム：MM21のデザイン調整の苦い記憶 147

2. 歩行者空間 160
高速道路の地下化計画 p.162／緑の軸線構想 p.163／ウォーターフロント軸 p.170／
道路の整備と実験的な活用 p.178／ストリートファニチャーによる道路景観向上 p.179

3. 質の高い街並みの誘導 180
公共が計入計する質の高いデザイン p.182／山下公園通り p.193／馬車道 p.195／
伊勢佐木町 p.196／元町 p.197／中華街 p.198／景観制度の活用 p.199
○コラム：景観協議の不調は、何を変えたか？ 205

4. 歴史を生かしたまちづくり 206
都市デザイン活動初期における歴史資産の保全活用 p.208／
関内を「歴史を生かしたまちづくり」の検討づくり p.210／歴史的建造物の保全活用 p.214／
近代建築の保全活用 p.216／日本大通りの歴史を生かしたまちづくり p.222／
山手地区の歴史的建造物保全活用 p.226／郊外部における歴史資産の保全活用 p.233／
土木産業遺構の保全活用 p.236／歴史的建造物の活用支援・歴史文化の広報普及 p.242／
新たな展開へ向けた検討「歴史を生かしたまちづくり」の推進について p.248
○コラム：アーバンデザイン50周年に寄せて 212
○コラム：歴史的資産と都市デザイン 213
○コラム：ヨコハマ洋館探偵団とシティガイド協会 249
○図表：横浜市認定歴史的建造物一覧 250

5. 文化芸術創造都市 252
○コラム：私と都市デザイン　元町そして横浜まちづくり供連部 261

6. 都心周辺・郊外区の都市デザインの展開 262
第1フェーズ：都心周辺・郊外区に展開し始める都市デザインの取組 p.264／
第2フェーズ：地域まちづくり推進条例 p.278／
第3フェーズ：近年のストック活用の取組 p.284
○コラム：都心周辺・郊外への展開・区の魅力アップ 265
○コラム：「横浜都市デザインフォーラム」がつないだ川・流域の市民活動 277
○コラム：横浜市地域まちづくり推進条例とヨコハマ市民まち音頭事業が生まれるまで 281
○図表：横浜市における「パートナーシップ型行政」の推移 282
○都市デザインを「知る」講演会②：
「身近な地域資源をいかした魅力づくり～水と緑のまちづくり～」
宮澤好×吉村伸一×滝澤恭平 292

7. 国内外との交流・発信 300
国際会議・シンポジウム・セミナー p.302／発信 p.306／表彰制度 p.307／
国外との交流・技術移転 p.308／交流・人材育成 p.310
○コラム：横浜の都市デザインと国際交流 305
○コラム：「未来社会の設計」横浜の環境問題計画を考える（2008年） 313
○コラム：「これからどうなるヨコハマ」生成期 北沢猛［アーバンデザイナー、横浜市参与］
がなくなったあと、なんとか自分たちでやってみようと思った。（2011年） 314

3-4｜「横浜都市デザイン50年の実践戦略と活動特性の変遷を振り返る」国吉直行 317
○「実務者の立場から振り返る50年」 321

4｜Progress｜都市デザイン手法の展開
4-1｜歩行者空間の展開 326
4-2｜歴史を生かしたまちづくりの展開 328
4-3｜都市デザインを推進する連携の展開 330
○「50年目の都市デザイン室」 332

Epilogue
対談 ～横浜が魅力ある場であるために～ Session 1 338
Session 2 343
「横浜の都市デザインがもたらしたもの」四村幸夫 348
編集後記 350

伊藤有壱先生書き下ろし、オリジナルマシュマロ

会場でカタログを購入された先着800名に、モンテローザ（株式会社三陽物産）協賛によるオリジナルマシュマロをプレゼントさせていただきました。アニメーションスタジオ「I.TOON」の伊藤有壱先生が今回のために書き下ろしてくださった“市の花バラを持ったレンガくん”や市内の歴史的建造物の絵がプリントされ、「まだマシュマロはありますか」というお問い合わせをいただくほど人気に。「食べるのがもったいない」という声も多数聞かれました。

Designer ／ ヤング荘 Youngsoul

2001年よりユニット活動を開始。パフォーマンスビデオや小型木造家屋のインスタレーション作品の他、展覧会カタログのグラフィックデザインなど、多岐にわたる分野を横断しながらも一貫した世界観で作品を制作。2007年より十二支をテーマにした年賀状作品を作り続けている。主な個展に「ヤング荘 十二支超」（2018, ギャラリー・ハシモト/東京）、「Young Soul FRESH COMPLEX」（2008, BankART Studio NYK/横浜）など。

謝辞

行政に関する展覧会としては異例の1万人を超す方々にご来場いただけることとなりました。都市デザインに関心のある方だけでなく、ごく一般の方が、横浜をもっと好きになったり、まちづくりに興味を向けるきっかけになる、そんな展覧会になったことが、何より嬉しい成果となりました。

突然の会期延長などもありましたが、協賛・協力企業・団体の皆さまには多大なご支援と迅速なご対応をいただき、無事終えることができました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

最後に、横浜の都市デザインの歩みに共感し、展覧会としての発信の背中を押して下さり、会場提供・運営、カタログ発行など、細部に至るまで、今回の展覧会の成功を支えてくださった、BankART1929及び池田修さんに、心から感謝申し上げます。

4/24（最終日） 展覧会制作チーム有志

特別協力 BankART 1929

協賛 三井不動産 MITSUI FUDOSAN　三菱地所

株式会社大林組｜鹿島建設株式会社｜株式会社三陽物産
清水建設株式会社｜大成建設株式会社｜株式会社竹中工務店
株式会社日建設計｜株式会社三菱地所設計
株式会社キクシマ｜京浜急行電鉄株式会社｜相鉄ホールディングス株式会社
株式会社ディー・エヌ・エー｜東急株式会社｜なぎさの会｜馬車道商店街協同組合
ヘリテイジタイムズ横浜・神奈川｜三井不動産レジデンシャル株式会社
横浜市建築設計協同組合（五十音順）

企画協力　株式会社キタムラ

広報・会場協力　横浜高速鉄道株式会社

展示協力　公益財団法人ギャラリー エー クワッド
一般社団法人横浜北仲エリアマネジメント
公益社団法人横浜歴史資産調査会

模型製作協力　神奈川大学｜関東学院大学｜東京都立大学｜武蔵野美術大学

2022年12月12日発行

［企画・編集］　横浜都市デザイン50周年事業実行委員会、横浜市都市整備局

［写真］　中川達彦、吉村伸一、菅原康太、森日出夫

［表紙デザイン］　NDCグラフィックス

［本文デザイン］　ヤング荘、NOGAN（p07-10）

［発行］　横浜都市デザイン50周年事業実行委員会
横浜市西区みなとみらい2-3-1

祝
10,000人
来場
50 years
UD
横浜 都市デザイン
Urban Design Yokohama